

## BYD、「第2世代ブレードバッテリー」と「FLASH Charging」技術を発表 最短5分でSOC10%→70%の充電を実現、低温環境でも高い充電性能

- 第2世代ブレードバッテリーおよび急速充電技術「FLASH Charging」を発表
- SOC10%→70%を最短5分、9分で97%まで充電可能
- -30°Cの低温環境でも充電時間の増加は約3分に抑制
- 最大1500kW出力のFLASH Chargerを新たに開発
- 2026年末までに中国国内で2万基のFLASH Chargingステーションを建設予定、グローバル展開も開始予定



<BYD Flash Charger>

— 中国・深圳— 2026年3月5日

BYDは、「第2世代ブレードバッテリー」および、新たな急速充電技術「FLASH Charging」を発表しました。本技術は、電気自動車（以下：EV）の普及において長年課題とされてきた充電速度の遅さと、低温環境下での充電性能の低下という二つの問題に直接対応するものです。

これらの技術的課題に対してBYDは、世界最高水準の充電性能を実現しました。バッテリー残量（SOC）10%から70%までを、わずか5分で充電でき、さらに9分で97%まで充電することが可

能になります。また、 $-30^{\circ}\text{C}$ という極寒の環境でも、20%から97%までの充電時間は、常温時と比べても、わずか3分増にとどまるなど、優れた低温充電性能を実現しています。

あわせて、BYDはインフラ整備計画を発表、中国国内で2万基のFLASH Chargingステーションを建設する予定であり、2026年末までにグローバル展開を本格化させる方針です。

## ■ EV普及における課題：充電速度と低温性能

世界のEV市場は急速に成長していますが、依然として消費者は、以下のような課題に直面しています。

- 航続距離への不安
- 休日の長時間にわたる充電待ち
- 冬季における充電速度の低下

これらはユーザーに精神的な負担を与えるだけでなく、従来型の充電設備による資源の非効率な利用やインフラコストの増大にもつながります。BYD会長兼社長の王伝福（ワン・チュアンフー）は、EV産業が今後解決すべき重要な課題として、充電速度の向上と低温環境における充電性能の改善をあげました。

## ■ 第2世代ブレードバッテリー：パワーバッテリー技術の新たなフロンティア

6年にわたる研究開発を経て誕生した「第2世代のブレードバッテリー」は、EVの充電体験をガソリン車の給油速度に匹敵するレベルへと引き上げることを目指しています。

従来のバッテリー工学では、急速充電性能と高エネルギー密度の両立は、技術的に難しいとされてきました。しかし、BYDはこのトレードオフを解決し、第1世代と比べ、エネルギー密度を5%向上させながら、充電速度も大幅に向上させることに成功しました。

第2世代のブレードバッテリー」を搭載した「DENZA Z9GT」は、BYDの最新の軽量車体と組み合わせることで、最大1,036kmというクラストップレベルの航続距離を実現しています。

また、第2世代ブレードバッテリーの内部の発熱を抑え、放熱効率を最大化するために、BYDは、

- 「リチウムイオン高速チャンネル」
- 「フルスペクトルインテリジェント熱管理システム」

を開発しました。

これらはBYDが掲げる「安全こそが新エネルギー車の究極のラグジュアリーである」という理念に基づくものです。第2世代ブレードバッテリーは、中国の国家基準を上回る、一連の安全試験をクリアしており、消費者の安全性への懸念を大きく低減しています。

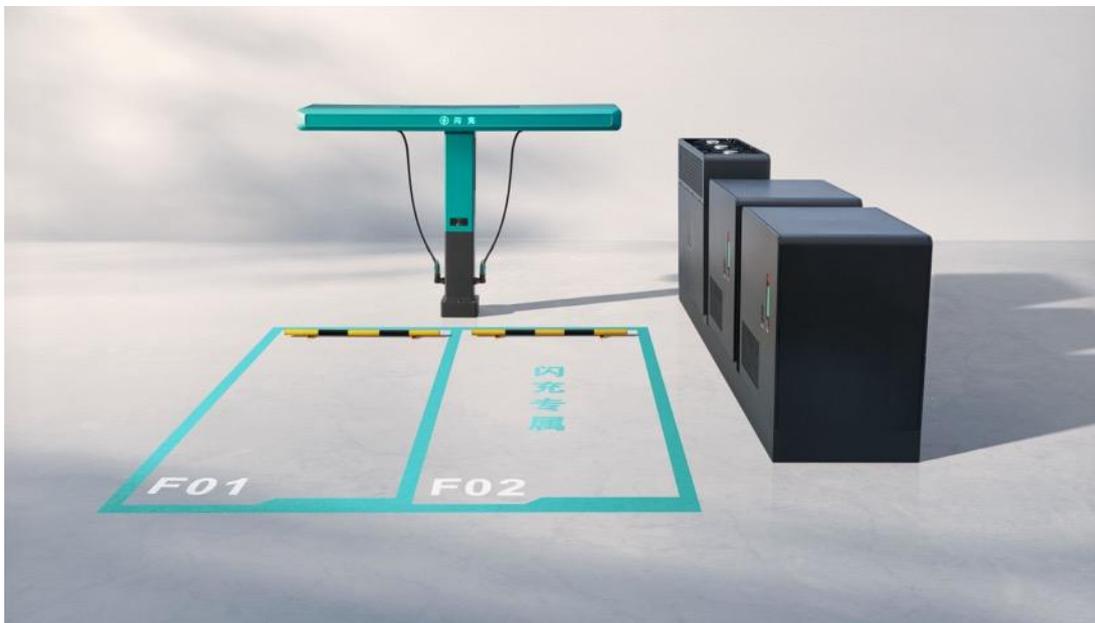
第2世代ブレードバッテリーは、これまでにない充電速度、1000kmを超える航続距離、そして、さらなる安全性の向上を実現し、パワーバッテリー技術の最前線を示す技術となります。

## ■ FLASH Charging：社会に配慮したエネルギーソリューション

そして、これらの充電性能を実現するために、BYD は最大 1500kW のシングルポート出力を持つ「FLASH Charger」を開発しました。

さらに、大容量エネルギー貯蔵システムと組み合わせることで、電力網の容量制限を回避しながら、地域の電力ネットワークに過度な負荷をかけることなく、高速充電を実現します。これは現在の EV 充電インフラの中でも、社会性と電力網との調和を重視した充電ソリューションとなります。

## ■ FLASH Charging ステーション：新しい充電体験



<BYD Solar-Storage-Charging Integrated System>

従来の公共充電設備では、以下のようなユーザー体験に関する課題が指摘されてきました。

- ケーブルが扱いにくい
- 衛生面の懸念
- 柔軟性の不足
- 認証手続きの複雑さ

FLASH Charger では、これらの課題を解決するため、世界初の T 字型プリー式充電システムを採用しています。「ゼロ・グラビティ設計」により、ユーザーは、軽々とコネクタを持ち上げることができ、車両の左右、どちら側からでも容易に充電することができます。また、ケーブルが地面に触れない構造となっており、清潔性も確保されています。

BYD は 2026 年末までに、中国国内で 2 万基の FLASH Charging ステーションを建設する計画であり、完成後は一般ユーザーにも広く開放する予定です。これにより、交通の電動化をさらに加速させ、より持続可能な社会の実現を目指します。

## ■ 「Three Green Dreams」による電動化社会の推進

BYD は 2006 年に「Three Green Dreams (3 つのグリーンドリーム)」というビジョンを提唱しました。これは、BYD 会長兼社長の王伝福が掲げた長期的な使命であり、

- 太陽光発電
- エネルギー貯蔵
- 電動モビリティ

を統合した、持続可能な社会の実現を目指すものです。

約 20 年にわたる継続的な取り組みにより、これらのビジョンは着実に現実のものとなり、現在では、Solar + Storage + Charging (SSC) を統合した FLASH Charging 技術として結実しています。

BYD は、「テクノロジーによって世界を変える」という信念のもと、第 2 世代ブレードバッテリーおよび FLASH Charging 技術の発表を通じて、電動化と知能化が進むモビリティ社会への移行をさらに加速し、次世代に向けた、より持続可能な社会の実現を目指していきます。

【参考資料】本資料は BYD (中国・深圳) が発表したプレスリリースを日本語に抄訳したものです。

本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については当言語が優先します。

※本リリースの掲載内容は画像を含め、2026 年 3 月 9 日 (月) 現在の情報です。内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

---

### 本件に関するお問い合わせ：

BYD Japan Group お問い合わせフォーム：<https://byd.co.jp/contact/>